

主の祈りはまるで一軒の高貴な建物のよう 2020年

今年1月15日は私の88歳の誕生日でした。その日デボーションの時、御霊が私の目を開けて主の祈りを一軒の高貴な建物のように見える、不思議なビジョンを見てきました。地下の基礎から地上の建物と屋根が完璧に組み立てられています。

地下の礎とは主の祈りの最初の三つの願いと希望です。「ねがわくは御名をあがめさせたまえ。」「御国を来たさせたまえ」「御心の天になるごとく、地にもなさせたまえ」。全能なる神の御名が全世界の人々に崇められますよう。天国の福音は全世界各地へ宣べ伝えられるよう。世の人々が全員、天国の御民となり、神の御旨が叶えられますように。これが揺るがぬ土台です。

次は地上の建物、壁と門と窓と寝室等の造作。「我らの日用の糧を、今日も与えたまえ」「我らに罪をおかす者を、我らがゆるすごとく 我らの罪をもゆるしたまえ」「我らをこころみにあわせず 悪より救いだしたまえ」

これは自分自身が神に対しての三つのお願いです。日々の生活において必要な知恵を賜り、健康までも見守って下さり、働きが出来るよう。神に対し、人に対し、過ちをおかしたことを反省し、神の御許しを得て、また人と和解をし、良い人間関係を結ぶこと。厚い信仰の故に、いろいろな罪の誘惑を勝ち取って安楽な暮らしが出来るよう。これは光線と風通し良い建物ではありませんか。

「国とちからと栄とは 限りなく なんじのものなればなり」これは主の祈りの締め括りの御言葉であって、まさに屋根の造作です。人間がいと高き神の御国と御力と栄光を真心から賛美するのがクライマックスに達することです。主の祈りはまるで高貴な建物のように見えます。我らは日々の栄光の建物の中で神と親しく交わるのは何と良い習慣ではありませんか。

永貴 智寛 (旧姓名 黄智寛)

主の御名を崇めます

永貴先生の原稿をワープロで打ちました。校正お願いします。

先生の御許可を頂ければ出版社に投稿いたします。日本はコロナウイルスで怯えています。教会は炉に投げ込まれて試されているようです。個人的には永遠の生命を約束されているので死は恐れていませんが、主イエスの救いに与っていない多くの人々のことが、心配です。数日前に有名な喜劇俳優がコロナで死亡しました。日本ではコロナに感染してなら入院をさせられます。面会は、感染の危険あるためできません。数日亡くなったこの喜劇俳優の場合は、遺体になって感染の危険の為に会えず、火葬されて、骨になって家族と面会できたのです。

クリスチャンなら主イエス様がいてくださるので、もし、コロナに感染してベットに孤独でも耐えることができますが、イエス様を信じない方々は、死を前にして、家族にも会えないのですから、恐怖であるでしょう。ゆえに、今、日本の人々に、コロナに感染して入院する前に福音を伝えることが急務です。そのためにお祈りください。

2020-4-2

永貴 智寛先生

山本 稔

」